

4 学力の問題について

新規[学力(絶対評価、学力調査等)]の結果概要

子どもの学力を『心配』している保護者は約7割で、特に、中学生の保護者が高くなっている。

絶対評価を『よいと思う』は32.4%、『よいと思わない』は21.1%となっている。また、絶対評価のよい点は、「生徒の進歩や教科目標の達成状況を把握できるため」「基礎的・基本的内容を習得したかどうか把握できるため」との回答が多い。また、よくない点は、「教諭・教師の主観で左右され客観性が確保できない」「学校格差が大きく、入試で不公平が生じる」が上位で、特に中学生の保護者の回答が多い。

<全国的な学力調査>を約7割が『よい』としているが、学力の向上につながるとしている保護者は3割強にとどまる。一方、学力の向上につながらないと思っている保護者も約3割を占める。

(1) 学力についての心配

【保】問12 あなたはお子さんの学力について、どのように感じておられますか。

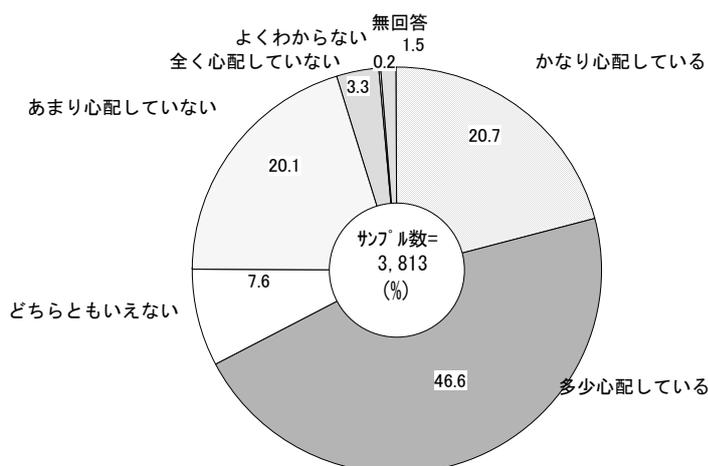
(〇は1つだけ)

【保護者調査の結果】

自分の子どもの学力については、「かなり心配している」と答えた人が20.7%、「多少心配している」が46.6%で、合わせて67.3%と3分の2の保護者が子どもの学力を心配している。

表頭：問12 学力についての心配

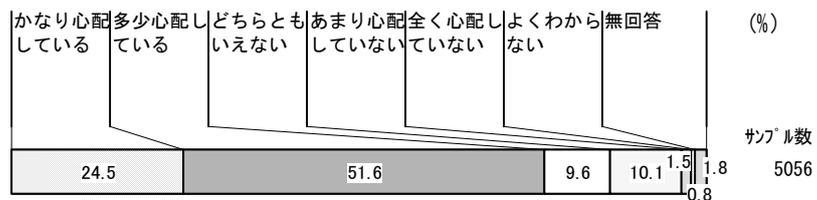
BD：TOTAL



ちなみに平成16年調査では、一般的な『学力低下への意見』を尋ねているが（「学力の低下を心配する声がありますが、あなたはどのように感じておられますか」）、「かなり心配している」は24.5%、「多少心配している」は51.6%となっている。

問12 学力についての心配－質問形式による比較－

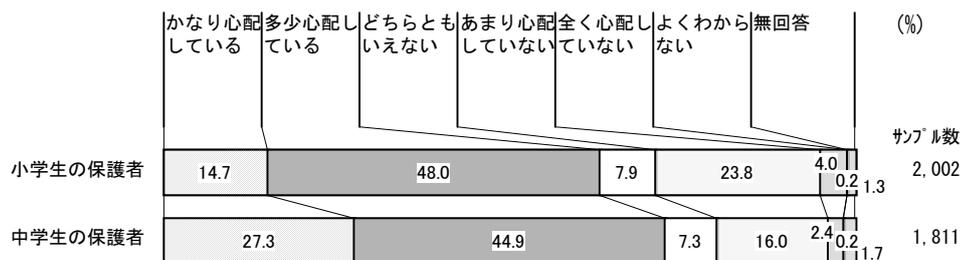
平成16年 学力低下への心配（学力の低下を心配する声がありますが、あなたはどのように感じておられますか。）



保護者区分（小・中学校別）

〔中学生の保護者〕では、「かなり心配している」と答えた人が27.3%と、3割近くにのぼっている。これに「多少心配している」（44.9%）を合わせると72.2%と7割強を占める。一方、〔小学生の保護者〕では、『心配している』（「かなり心配している」「多少心配している」の合計）が62.7%と6割強で、〔中学生の保護者〕に比べ約10ポイント低くなっている。

表頭：問12 学力についての心配
表側：保護者区分



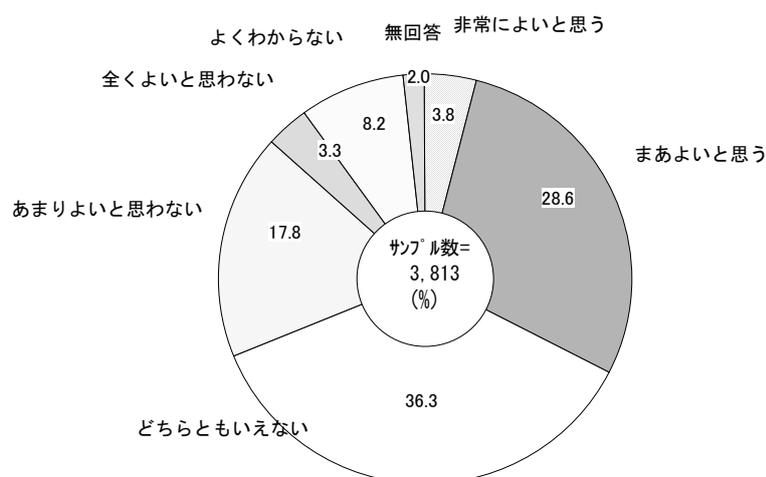
(2) 絶対評価に対する評価【新規】

【保】問13 新学習指導要領下での評価については、子どもが学習指導要領に示す内容を確実に身に付けているかどうかを評価し指導改善に生かすため、学年または学級における位置づけを表す評価（いわゆる相対評価）から、学習指導要領に示す目標の実現状況を見る評価（いわゆる絶対評価）を一層重視しています。あなたは、この絶対評価についてどのように感じていますか。（○は1つだけ）

【保護者調査の結果】

絶対評価については、「非常によいと思う」と答えた人が3.8%、これに「まあよいと思う」（28.6%）を合わせた『よいと思う』が32.4%と3割強であるのに対し、『よいと思わない』（「あまりよいと思わない」「全くよいと思わない」の合計）と答えた人は21.1%とほぼ2割で、肯定的な評価の方が約11ポイント高くなっている。

表頭：問13 絶対評価に対する評価
BD：TOTAL



保護者区分（小・中学校別）

〔小学生の保護者〕〔中学生の保護者〕ともに、『よいと思う』と答えた人は32～33%で、ほぼ同傾向となっている。

表頭：問13 絶対評価に対する評価
表側：保護者区分

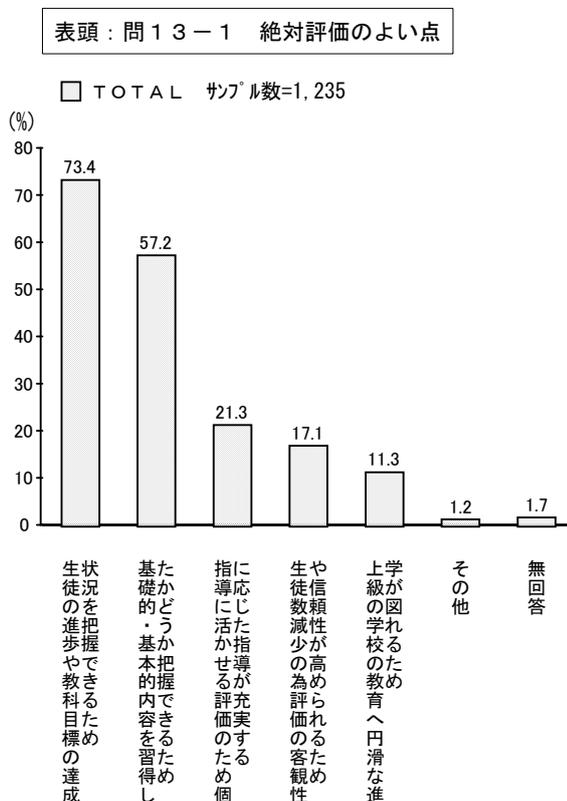
	非常によいと思う	まあよいと思う	どちらともいえない	あまりよいと思わない	全くよいと思わない	よくわからない	無回答	(%)	サンプル数
小学生の保護者	4.0	28.5	36.7	17.0	3.0	9.0	1.7		2,002
中学生の保護者	3.6	28.6	35.9	18.6	3.7	7.2	2.3		1,811

①絶対評価のよい点

【保】付問 13-1 【問 13 で「1非常によいと思う」「2まあよいと思う」とお答えの方】「絶対評価」のどのような点がよいと思いますか。(〇はいくつでも)

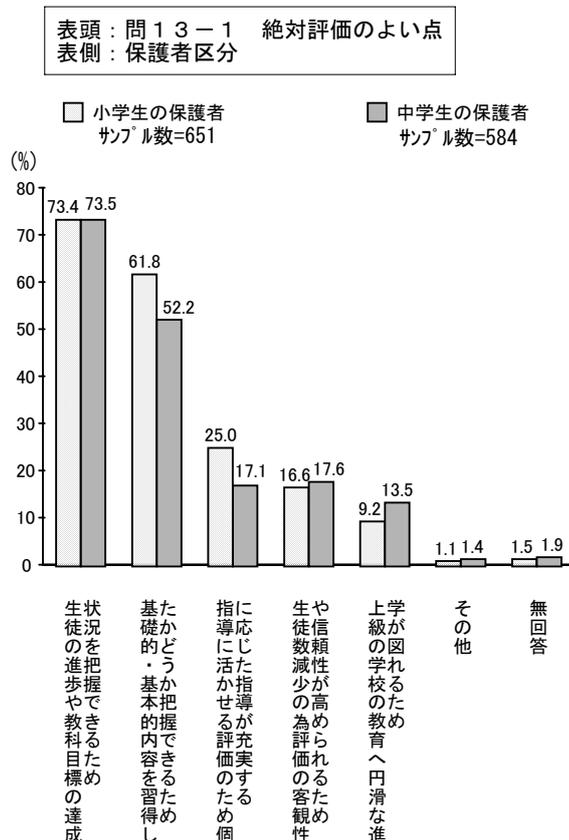
【保護者調査の結果】

絶対評価をよいと思う人に、どのような点がよいと思うかを聞いたところ、「生徒の進歩や教科目標の達成状況を把握できるため」が 73.4%で最も高く、次いで「基礎的・基本的内容を習得したかどうか把握できるため」が 57.2%となっている。



保護者区分 (小・中学校別)

〔小学生の保護者〕〔中学生の保護者〕ともに、ほぼ同傾向となっているが、上位 2、3 位の「基礎的・基本的内容を習得したかどうか把握できるため」(61.8%)と「指導に活かせる評価のため個に応じた指導が充実する」(25.0%)は、〔中学生の保護者〕に比べ〔小学生の保護者〕で 8～10 ポイント高くなっている。



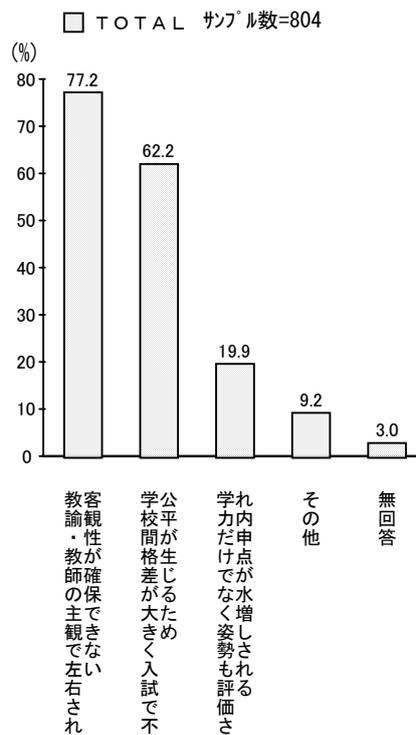
②絶対評価のよくない点

【保】付問 13-2 【問 13 で「4あまりよいと思わない」「4全くよいと思わない」とお答えの方】「絶対評価」のどのような点がよくないと思いますか。(〇はいくつでも)

【保護者調査の結果】

絶対評価がよくないと思う人に、どのような点がよくないと思うかを聞いたところ、「教諭・教師の主観で左右され、客観性が確保できない」が 77.2%で最も高く、次いで「学校間格差が大きく、入試で不公平が生じるため」が 62.2%となっている。

表頭：問 13-2 絶対評価のよくない点



保護者区分 (小・中学校別)

〔小学生の保護者〕〔中学生の保護者〕ではほぼ同傾向となっているが、総じて〔中学生の保護者〕の割合の方が高いのが特徴である。

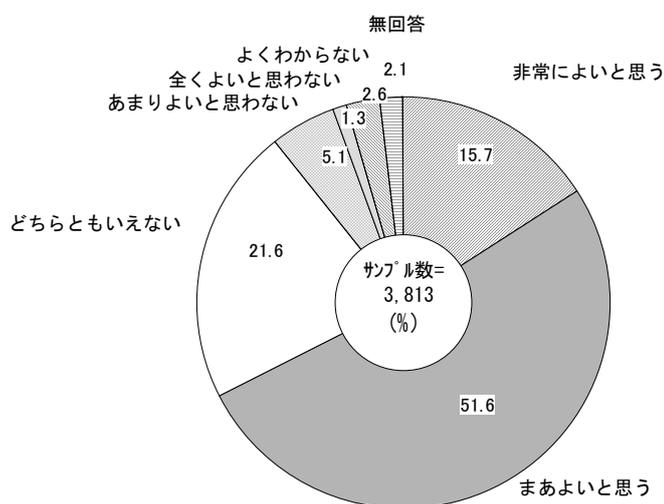
(3) 全国的な学力調査実施の是非【新規】

【保】問14 文部科学省は「全国的な学力調査」の実施を決定しましたが、あなたはこの「全国的な学力調査」の実施についてどのように感じていますか。(○は1つだけ)

【保護者調査の結果】

全国的な学力調査の実施については、「まあよいと思う」と答えた人が51.6%と過半数を占め最も高く、これに「非常によいと思う」(15.7%)を合わせると67.3%と、7割近くの人が全国的な学力調査の実施を評価している。一方、「あまりよいと思わない」(5.1%)や「全くよいと思わない」(1.3%)と答えた人は、合わせても6.4%にとどまる。

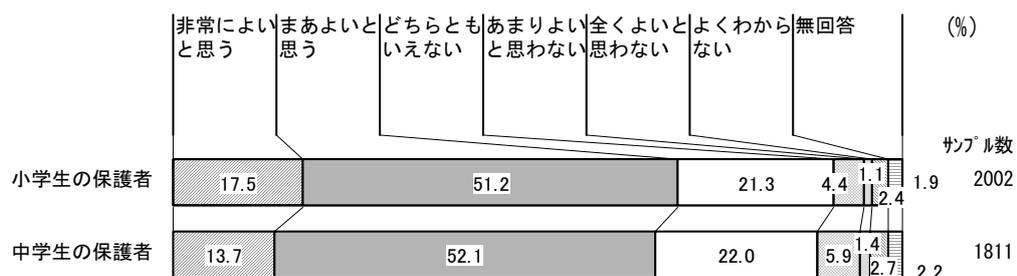
表頭：問14 全国的な学力調査実施の是非
BD : TOTAL



保護者区分 (小・中学校別)

〔小学生の保護者〕〔中学生の保護者〕ともにほぼ同傾向となっているが、「非常によいと思う」については、〔小学生の保護者〕(17.5%)の方が若干高くなっている。

表頭：問14 全国的な学力調査の実施の是非
表側：保護者区分

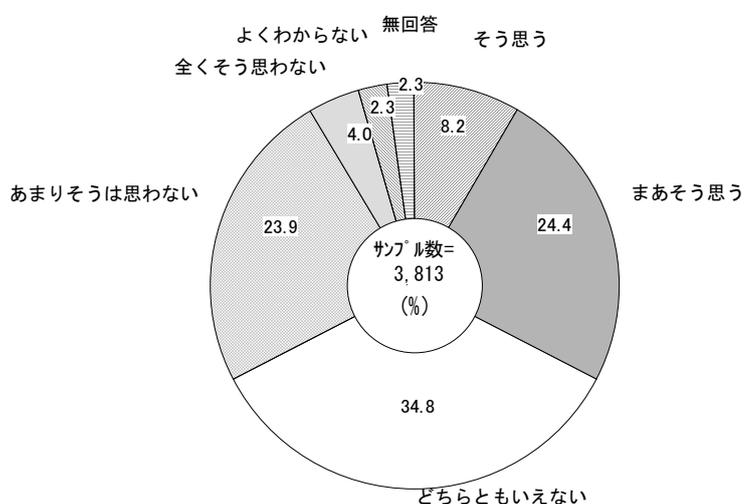


(4) 全国的な学力調査実施による学力向上への期待【新規】

【保】問 15 「全国的な学力調査」の実施で、子どもの学力の向上につながると感じますか。
(○は1つだけ)

【保護者調査の結果】 全国的な学力調査の実施による学力の向上については、「どちらともいえない」と答えた人が34.8%、『**『そう思う』**（「**『そう思う』**」「**『まあそう思う』**」の合計）が32.6%、『**『そう思わない』**」（「**『あまりそう思わない』**」「**『全くそう思わない』**」の合計）が27.9%となっており、ともに3割前後と、回答が分散している。

表頭：問 15 全国的な学力調査実施による学力向上への期待
 BD : TOTAL



保護者区分 (小・中学校別)

『**『そう思う』**』（「**『そう思う』**」「**『まあそう思う』**」の合計）とする割合は、〔小学生の保護者〕の方が若干高くなっている。

	そう思う	まあそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	全くそう思わない	よくわからない	無回答	(%)
小学生の保護者	8.8	25.5	34.4	23.2	3.4	2.2	2.5	2002
中学生の保護者	7.5	23.2	35.3	24.7	4.7	2.5	2.1	1811

(5) 家庭での学力向上への取組状況

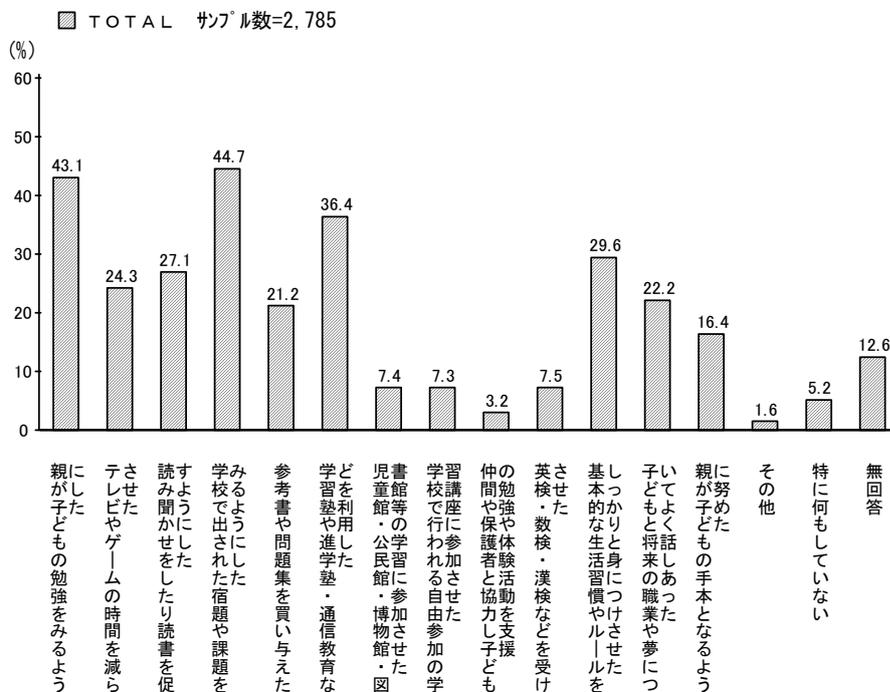
【保】問 16 今までに、あなたのご家庭では子どもの学力向上のためにどのようなことをしましたか。(〇はいくつでも)

【保護者調査の結果】

■小学生の子どもに対して

小学生の子どもに対して家庭の中で行った学力向上のための取り組みは、「学校で出された宿題や課題をみるようにした」(44.7%)と「親が子どもの勉強をみるようにした」(43.1%)がともに4割強を占め高くなっている。次いで「学習塾や進学塾・通信教育などを利用した」が36.4%となっている。

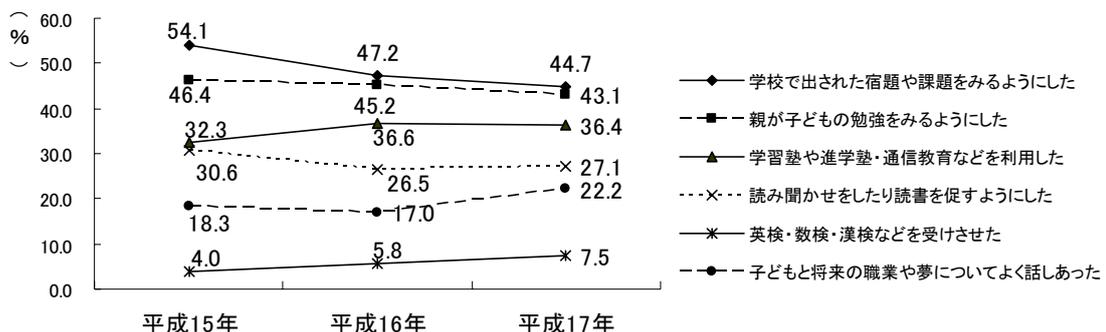
表頭：問 16 家庭での学力向上への取組状況－小学生の子どもに対して



時系列比較 (平成15年、16年、17年調査より)

時系列で3ポイント以上変化した項目をみると、「学校で出された宿題や課題をみるようにした」と「親が子どもの勉強をみるようにした」のは減少傾向がみられる。逆に、「子どもと将来の職業や夢についてよく話しあった」は平成16年調査に比べ、約5ポイント高くなっている。

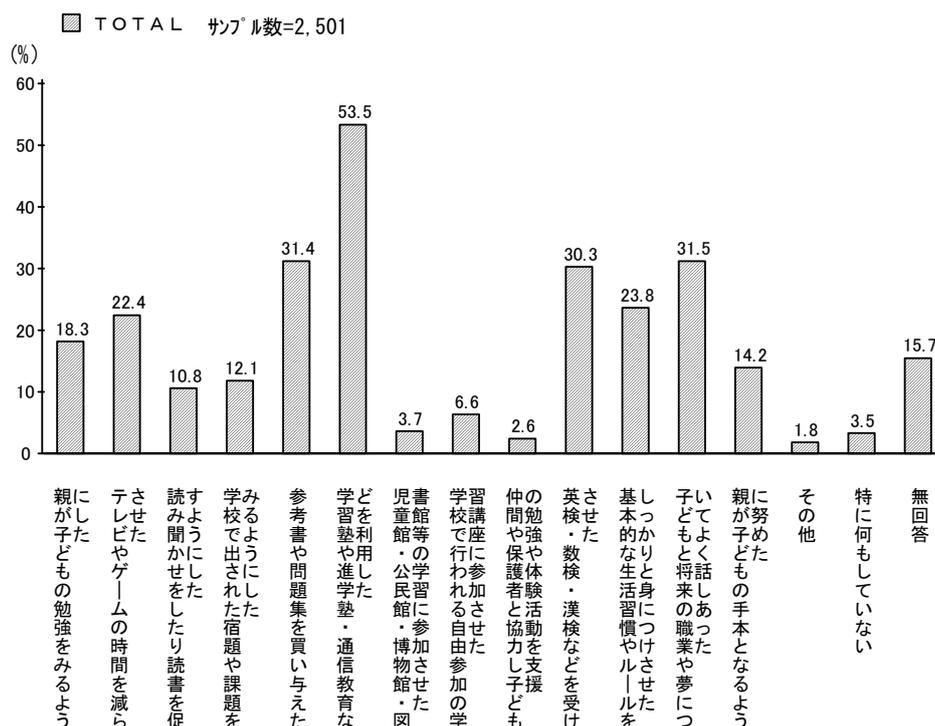
問 16 家庭での学力向上への取組状況－小学生に対して (3ポイント以上変化した項目)－時系列比較



■中学生の子どもに対して

中学生の子どもに対して家庭の中で行った学力向上のための取り組みとしては、「学習塾や進学塾・通信教育などを利用した」が 53.5%と過半数を占め、特に高くなっている。以下、「子どもと将来の職業や夢についてよく話しあった」(31.5%)、「参考書や問題集を買い与えた」(31.4%)、「英検・数検・漢検などを受けさせた」(30.3%) がいずれも約 3 割で続いており、学校以外の学習教材の利用に関するものが上位を占め、[小学生の子どもに対して]とは異なった傾向がみられる。

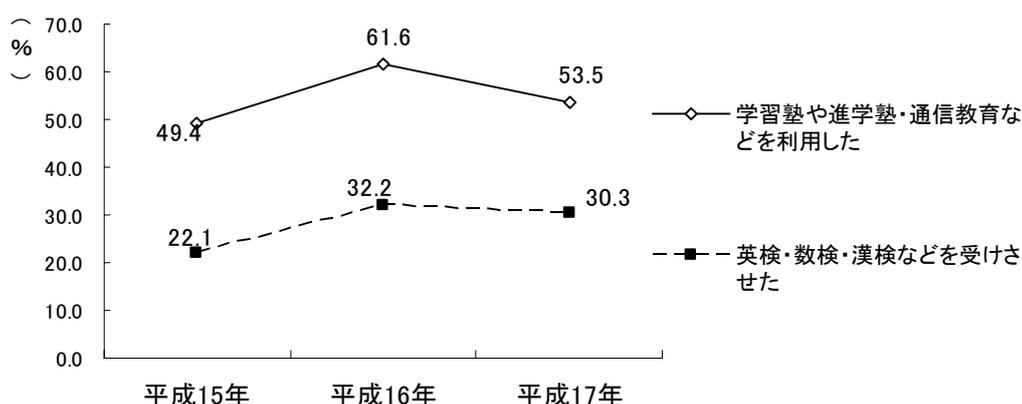
表頭：問 16 家庭での学力向上の取組状況－中学生の子どもに対して



時系列比較 (平成 15 年、16 年、17 年調査より)

時系列で 3 ポイント以上変化した項目をみると、「学習塾や進学塾・通信教育などを利用した」と「英検・数検・漢検などを受けさせた」ともに、16 年調査では大幅な増加がみられたが、今年度調査では、若干減少に転じている。

問 16 家庭での学力向上への取組状況－中学生に対して (3 ポイント以上変化した項目)－時系列比較

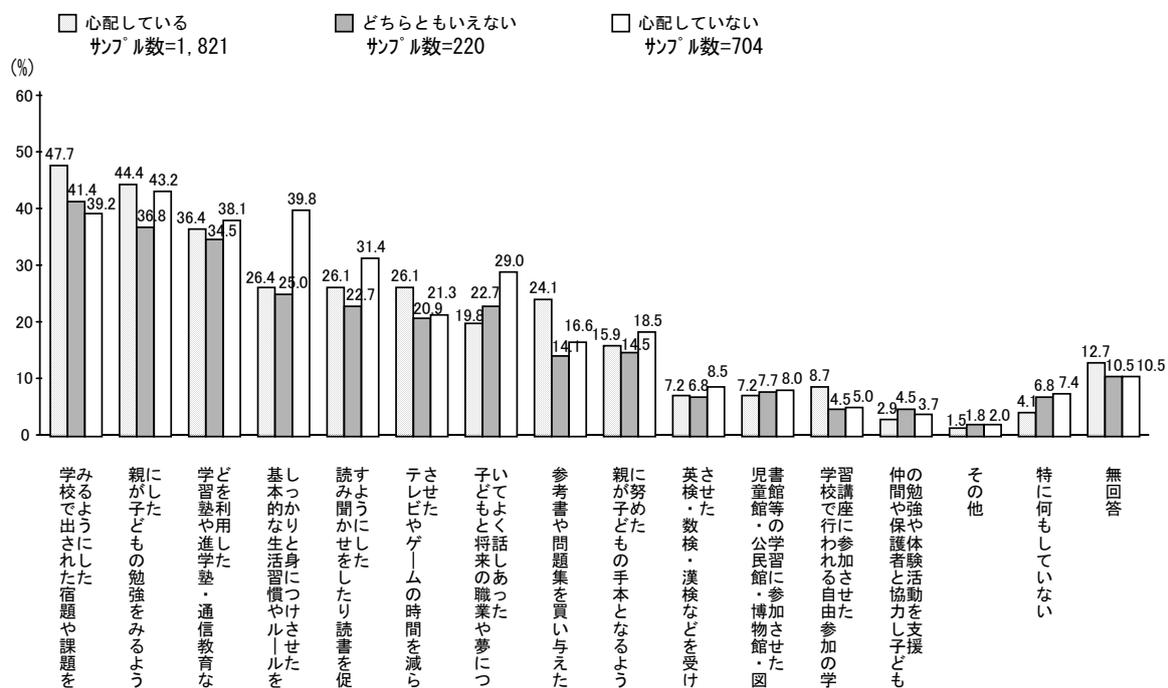


学力低下の心配度別（問 12）

■小学生の子どもに対して

学力低下を〔心配している〕層では「学校で出された宿題や課題をみるようにした」と「親が子どもの勉強をみるようにした」が他の項目に比べて多くなっているほか、「参考書や問題集を買い与えた」も 24.1%で、他の層に比べ高くなっている。一方、〔心配していない〕層では、「親が子どもの勉強をみるようにした」（43.2%）、「基本的な生活習慣やルールをしっかりと身につけさせた」（39.8%）、「学校で出された宿題や課題をみるようにした」（39.2%）、「学習塾や進学塾・通信教育などを利用した」（38.1%）がいずれも約 4 割となっており、特に「基本的な生活習慣やルールをしっかりと身につけさせた」は 4 割を占めており、他の層に比べ特に高い。

表頭：問 1 6 家庭での学力向上への取組状況－小学生の子どもに対して
表側：問 1 2 学力低下の心配度



■中学生の子どもに対して

どの層においても「学習塾や進学塾・通信教育などを利用した」が半数を超え特に高いが、学力低下を〔心配している〕層では55.6%と過半数を大きく超えている。また、「テレビやゲームの時間を減らさせた」も〔心配している〕層では25.4%と4分の1を占め、他の層に比べ若干、高くなっている。一方、「英検・数検・漢検を受けさせた」「基本的な生活習慣やルールをしっかりと身につけさせた」「親が子どもの手本となるように努めた」については、心配していない層ほど高率になる傾向がみられる。

表頭：問16 家庭での学力向上への取組状況－中学生の子どもに対して
表側：問12 学力低下の心配度

